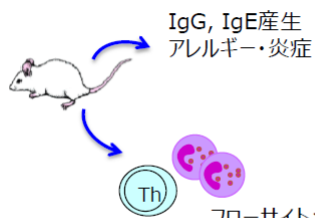


免疫毒性の評価系

過敏症など医薬品の免疫系に対する毒性の評価も、標準的な医薬品開発過程において行われる必要がある。我々は、*in vivo* では、免疫組織の変化、T細胞依存性抗体産生 (TDAR) を SRBC、KLH、OVA などの抗原を用いて検証する。また、*in vitro* において、レクチンやスーパー抗原 (SEB など) を用いたリンパ球増殖反応、末梢組織や骨髄の T 細胞, B 細胞, 骨髄由来樹状細胞、マクロファージ、マスト細胞、NK 細胞などの分布や機能の測定を行い、炎症・免疫応答の抑制や亢進を検証することでも多くの研究者を支援できる。

in vivo, in vitro 免疫毒性評価



- 白血球 (T細胞、B細胞、顆粒球など) 数の増減・活性化
- T細胞依存性 抗体産生変化
- 臓器・組織での炎症性タンパク質の発現
- *in vitro* 免疫細胞活性化試験 (リンパ球、マクロファージ、マスト細胞など)